

英国において指摘されているカーボン・オフセットの主な問題点

英国のカーボン・オフセット市場では、主として下記のような問題点が指摘されている(表1)。抽出した問題点は、英国下院環境監査委員会報告書¹及び英国でのヒアリング結果を踏まえて、類型化したものである。

表 1. カーボン・オフセットの主な問題点

類型		問題事例の内容
オフセットが排出削減につながっていない		◆ HSBC は、2005 年にカーボンニュートラルをオフセットにより達成したと発表した。しかし、実際の排出量は 2004 年の 585,000 t-CO ₂ から 2005 年には 663,000 t-CO ₂ に増加しており、オフセットが免罪符となり実際の排出削減につながっていないと指摘している ² 。
オフセット対象の GHG 排出量算定方法		◆ Tufts Climate Initiatives が複数のプロバイダーを調査し、ボストン～ワシントン DC までのフライト(往復)による GHG 排出量を算出させたところ、0.19～0.44 t-CO ₂ の差があった ³ 。
信頼性	ダブル・カウンティング	◆ VER 市場では国際的に統一されたレジストリが存在しないので、例えば CER として取引されたクレジットが、VER としてもクレジットになり得る。また、こうした事例が起きてもチェックできない(英国下院環境監査委員会の指摘事項)。
	透明性	◆ プロバイダーが提供するオフセット商品は、どのような種類のクレジットにより構成されているか、また購入金額のうちプロジェクトに支払われた金額と管理費用との内訳といった情報は消費者には提供されない。
クレジットの品質	持続性	◆ Cold Play(ロックバンド)はアルバム制作・流通で排出される CO ₂ を、The Carbon Neutral Company を通じてインドでの植林プロジェクト(1万本のマンゴーを植栽する)でオフセットしたと発表した。しかし、実際には植栽された樹木の約 40% が管理不足で枯死してしまい、想定していたクレジットは発生しなかった。
	追加性	◆ Sky(英国メディア)は、2006～2007年の事業所等からの温室効果ガス排出量 45,000 t-CO ₂ を、The Carbon Neutral Company を通じてブルガリアの再生可能エネルギープロジェクトに投資すること等でオフセットしたと発表した。しかし、このプロジェクトは、Sky が投資する前から、Sofia 銀行が投資していたプロジェクトであり、プロジェクトへの資金的な追加性が問題視された。

¹ House of Commons (2007) The voluntary carbon offset market
(<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm200607/cmselect/cmenvaud/331/331.pdf>)

²一方で、自社努力の限界削減費用がオフセット費用に比べて高価な場合は、費用対効果の観点から全量オフセットするのは合理的であり、クレジットの追加性等を証明できれば、特に問題ないという意見もある。

類型	問題事例の内容
将来価値の計算	◆ 購入時点と実際の排出削減が実施される期間の事例として Carbon Trade Watch はあるプロバイダーのポートフォリオを基に推計結果を示している(表2参照)。仮に下表のポートフォリオに基づき 2005 年の大晦日に NY までの片道フライト(0.77 トン)のオフセットを 5.77 ポンドで購入した場合、実際にオフセットが相殺されるには 2106 年までおよそ 100 年を要する。
プロジェクトの領域内外への影響(リーケージ)	◆ 植林プロジェクトにより地域の水供給を使いすぎて、プロジェクトのバウンダリー外での地域農業の成長へ悪影響をもたらす可能性がある。 ◆ ある地域での森林減少を抑制したとしても、他の地域で森林減少が進む場合(リーケージ)もある

表2 将来価値の計算(例)

プロジェクトタイプ	オフセットに要する年数	計算のベース	全てのオフセット量に占める割合
エネルギー効率向上	6 年	省エネ電球の寿命	50%
再生可能エネルギー	12 年	風力タービンの寿命	20%
植林	100 年	木の寿命	30%

³ Tufts Climate Initiatives (http://www.tufts.edu/tie/tci/pdf/TCI_Carbon_Offsets_Paper_Jan07.pdf)